

① 重点推進モデルの構築・展開

- ・中山間地の課題解決モデル(都市部の生活環境を変えたい人など)
- ・直売所(飲食店、学校給食)を中心とした地域活性化モデル
- ・農業版“働いてもらい方改革”モデル<副業・兼業促進>



② 開設・運営等の体制づくり

- ・地域の特色に合わせた多様な主体向け農地（耕作放棄地等）あっせん
- ・多様な就農ニーズに合わせた技術サポート
- ・初期投資を抑える農業機械のシェアや“居抜き型”経営継承



③ 意欲ある活動主体への支援等

- ・観光、教育、福祉など、多様な価値の創出を支援
- ・農泊や田舎応援隊など、従来の取組み（農村ファンづくり等）の支援拡充
- ・その他、アグリパーク構想の進捗度合に応じ、適宜、効果的な情報発信

<基本的な取組方向>

- ・まずは、「全国平均」に近づけていけるよう、**国が掲げる食料自給率の増加目標のペースの約2倍のペース**で向上させていけるよう、農業生産の潜在力を活用できる“米”をはじめ、野菜や果実、畜産物、水産物など農畜水産物全般の供給力を強化。
- ・そのため、①生産拡大と②販路拡大を両輪で進める。
 - ①生産拡大(品目の特性に応じた生産性の向上、新たな担い手の確保、遊休農地を含めた農地の利用拡大)
 - ②販路拡大(国内、海外など、マーケットごとの多様な流通の仕組みづくり)

①生産拡大

<米>

生産性向上
品目特性に応じた

- 多収品種の開発・導入による収量向上、種子の安定生産
- 国の水田政策の見直し等を踏まえ、地域の実情に則した**主食用米への品目転換を促進
- 気候変動影響調査を踏まえた高温耐性品種導入
- 平坦地早期栽培における再生二期作の実施
- 徹底したコスト削減、**単収向上に向けた技術等改善**
- ちよくほ直播等効率的な生産方式への転換（スマート農業導入）

<米以外の品目>

- 【野菜類】高温対策技術の開発、生産方式の転換、品種開発
- 【果樹】高温・害虫（カメムシ等）対策、品種開発、計画的な改植
- 【麦・大豆】ほ場の排水性向上、多収品種の導入、害虫対策
- 【畜産物】生産頭数の増、飼料利用効率の向上、未利用資源の利用拡大
- 【水産物】鮎の集出荷システムの構築、養殖業の振興（種苗開発）
- 【ジビエ】処理施設の受入体制改善、販売ルート拡大

新たな
担い手確保

- 新たな就農ルートの創出（アグリパーク構想の実現）
- 「居抜き型」の経営継承の推進
- 農外企業の参入促進（サポート体制、インセンティブ導入）
- 兼業・副業・マイクロワーク人材の確保（担い手支援）
- 既存の就農ルートの充実（受け入れ体制の確保）
- 経営安定への支援（収益力の強化）
- 農業機械の計画的共同利用の促進
- 農作業オペレーター、農業サービス事業体の育成

農地
拡大
の
利用

- 農地中間管理機構と連携した「地域計画」のブラッシュアップ
- 省力化・省人化に繋がる生産方式への転換
- 農業委員や農地利用最適化推進委員の活動強化
- 大区画化などの基盤整備をセットにした農地の団地化
- 遊休農地等の活用のための基盤整備、あっせん
- 粗放的農業の展開

②販路拡大

<国内>

- 流通ルートの見直し（米など）
- 大消費地（三大都市圏）への農産物販売促進
- 近隣の直売所、飲食店へ供給、消費拡大

<海外>

- 地域商社の育成
- 大手米卸売業との連携
- 農産物輸出の伴走支援

<EC>

- 消費者の多様なニーズに合わせたインターネット販売の促進

環境調和型農業の新たな認定制度等の仕組みについて（たたき台）

■背景・課題

- ・生産、消費・販売サイドともに、環境にやさしく、安全・安心で新鮮な農産物を生産し、消費したいというニーズがある。
- ・今後、アグリパーク構想の展開により多くの新規農業参入を見込んでおり、新たな人も含めた農業者がみんなで取組み、消費・販売者もみんなで応援する、新しい仕組みが必要である。

【生産サイド】

- 本県では、平成6年頃から「ぎふクリーン農業」に取り組むなど、環境調和型農業に対する素地がある。
- 環境にやさしい取組み全体を見える化し、消費者に伝えるツールが必要である。
- GAPの取組みは、食品として“あたりまえ”の安全・安心を確保するため、生産工程を管理する取組みとして必要。

【消費・販売サイド】

- 県民をはじめ消費者が、岐阜県産の環境にやさしい農産物を選ぶようにも、マーク等がないため選べない。
- 消費者のファンづくりのためには、生産者のストーリーの見える化、安心安全の信頼関係の構築が重要。
- さらに、価値を伝えるツールと併せて、売り場（棚）を切らさないような安定供給も必要。（“量”も必要）



「県全体の環境調和型農業による生産」と「消費・販売」をつなぐ制度・仕組みづくり

■新たな認定制度

県独自の認定制度 = みどり認定 + GAP取組み

- ・減農薬・減化学肥料だけでなく、CO₂削減など、幅広い環境負荷低減の取組みを認定する国の「みどり認定」に加え、「ぎふ清流GAP」の考えを取り入れ、農産物の安全・安心が確保できる生産工程管理への取組みも要件化。
- ・取組みを差別化するため、岐阜県独自のロゴマークを作成して表示、消費・販売サイドにPR。

【基本コンセプト】

- ・みんなが取組み、生産者・産地の取組みの差別化・特色を活かせるような工夫を検討（例：意欲ある取組をPR）
- ・一度、認定したら終わりではなく、生産者等が環境負荷低減の取組みをステップアップできる仕組み（インセンティブ活用）



イメージ

■制度を活かす仕組みづくりについて

みどり認定は、減農薬・減化学肥料だけでなく、省エネ、脱炭素の幅広いジャンル・レベルの環境負荷低減の取組みを認定する制度（認定主体は県） ※R9～みどり認定者に国の支援をシフトしていく動きあり

- 岐阜県全体で、新表示制度「環境にやさしい農産物」のブランド戦略、ストーリーづくり
- そのうえで、よりレベルの高い取組み（有機農業など）を実践する生産者をPRする（特色を活かせる）仕組みづくり
- まずは、身近な（近隣県含む）量販店、直売所等と連携して、地消地産のファンづくりから、新たなルート開拓につなげる。
※全国展開（ファンづくり）も併せて検討

気候変動の影響緩和に向けた主な課題と対策について①

品目・分野	課題	必要な対策等
コメ	高温登熟障害による収量減・品質低下	<ul style="list-style-type: none"> ・県が育成した「清流のめぐみ」等の高温耐性品種の普及、栽培管理技術の暦への反映等 ・土づくりや肥培管理の検討（ケイ酸質資材、出穂期以降の肥効維持等）
	カメムシ類等の増加による不稔及び品質低下	<ul style="list-style-type: none"> ・暦の防除回数や薬剤選定の検討
	トビイロウンカの飛来、いもち病発生増加	<ul style="list-style-type: none"> ・防除資材の選定、水稻への病害虫等抵抗性遺伝子の導入
麦類	秋の長雨に伴う米収穫作業遅延に連動する播種遅延	<ul style="list-style-type: none"> ・晩播での播種量調整、播種遅延に対応する収量低下軽減技術の確立
大豆・野菜類	チョウ目害虫（ハスモンヨトウ・メイガ類等）の多発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における発生予察の詳細なデータに基づく、新たな農薬を含めた防除体系の確立 ・殺虫剤抵抗性の発達を回避した管理技術の開発
夏ダイコン	集中豪雨による土壌流亡 高温干ばつと豪雨による品質低下	<ul style="list-style-type: none"> ・流亡対策（土砂上げ、溝切、畝間麦）の徹底 ・適切な土壌水分管理
ニンジン	高温による発芽不良	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な土壌水分管理
夏秋ナス	収穫期間の乾燥によるボケ果の発生等の品質低下	<ul style="list-style-type: none"> ・日射量に応じた適切な灌水
夏秋トマト	夏季の長雨、高温による着果性の低下、裂果や尻腐れ果の発生による収量減少、品質低下（裂果等）	<ul style="list-style-type: none"> ・遮光資材の使用 ・品種の導入と品種特性に応じた栽培技術指導
	夜間の高温による収量低下	<ul style="list-style-type: none"> ・「岐阜県方式夜間冷却システム」による着果性向上等の検討

気候変動の影響緩和に向けた主な課題と対策について②

品目・分野	課題	必要な対策等
ハウレンソウ	高温による発芽・生育不良	・耐暑性品種選定、遮光資材の使用、灌水方法の改善
イチゴ	花芽分化のバラツキや小玉化による収量減	・花芽分化安定技術の開発・普及
	高温によるミツバチの活動低下	・遮熱資材利用による施設内の高温対策 ・遮熱資材利用による巣箱の高温対策
カキ	カメムシ類の増加による品質低下	・カメムシ類に対応した防除ごよみの検討
	高温による着色不良、果実品質の低下（軟化）	・適正な間伐整枝剪定、着果管理、施肥管理
	日焼け果	・着果管理（着果位置の調整）
リンゴ	晩霜害による減収、品質低下	・耕種的防除（草刈込、マルチ除去、散水、防風ネット除去など） ・防霜資材の使用（燃焼法）
モモ	凍害による枯死障害樹の発生	・「ひだ国府紅しだれ」台木の使用
クリ	凍害による枯死障害樹の発生	・高接ぎ苗の使用、株ゆるめ処理、高畝・マルチ栽培
茶	晩霜害遭遇頻度の増加	・晩霜害対策（防霜ファン）
畜産	高温による生産成績・生産物品質の低下	・換気システムやミスト散布、遮熱剤等の導入による畜舎内環境の改善 ・牛の被毛を薄く短く変化させるSLICK遺伝子の導入 ・気候に適応した飼料作物品種の選定
水産（アユ）	産卵の遅れに伴う天然遡上鮎の晩期小型化	・早期遡上鮎由来の放流用稚鮎での安定生産及び早期放流の効果検証
	高水温で発生する病害による成長停滞や死亡	・高水温で発生しやすい病原体の保菌検査等による監視 ・防疫対策の徹底指導